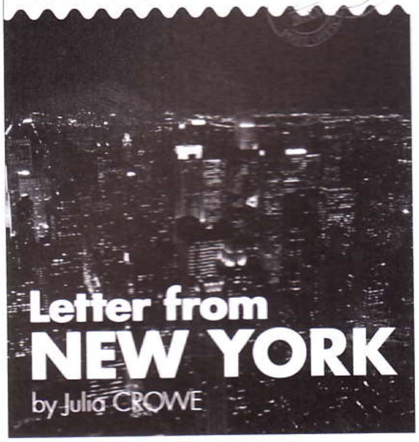
ニューヨーク便り

ジュリア・クロウ　訳：関塚亮司



●サンフランシスコで活躍中の新鋭ギターアンサンブル、メビウス・トリオ

2010年に結成されたメビウス・トリオのメンバーは、サンフランシスコ音楽学校の学生、ロバート・ナンス、メイソン・フィッシュおよびマシュー・ホームズ＝リンダーの３人だが、彼らは、現代音楽の作曲家に委嘱して作られたギターアンサンブル作品を中心に演奏している。『最後の光』というタイトルのデビューCDを製作したセルジオ・アサドに言わせると「メビウス・トリオは、現在、最も革新的で、エキサンティングな若手ギターアンサンブルである」のだという。

このグループ結成の中心となったのは７弦ギター奏者のメイソン・フィッシュだが、それは彼がサンフランシスコ音楽大学の大学院に入り、修士課程で学び始めた時のことだった。

「カリフォルニア大学デービス校の学生だった作曲家のギャレット・シャツァーに会いに行ったのは、私がニューヨークのイーストマン音楽学校で学士号を取得する直前でした」とフィッシュは述べた。

「彼は、当時私が所属していたギターカルテットの為に作品を書きたがっていました。しかし、私はサンフランシスコ音楽学校に入るために、カリフォルニアに転居することになっていたので、しばらく待つように言いました。その後カルテットは解散しました。私にとって音楽教育の中心はアンサンブルでしたから、修士課程で学び始めたとき、ギターアンサンブルに焦点を当てることにしました。そしてギャレットには、彼とのコラボレーションの為に、新しいアンサンブルをつくることを約束したのです」

「同時に、私にとって理想的なアンサンブルは、ギターカルテットではないことに気が付きました。ギターカルテットのレパートリーはほとんどの場合、同じフレーズを複数のギターで弾いたり、部分的に重なり合ったり、繰り返しも多くて、ギターが持っている複雑な機能を使わずに、各パートが作品全体を通して１つのメロディーを弾くといった、非効率な楽器の使い方をしているように、私には思われました」

「そこで、例外はあるにしても、演奏者を１人減らすことで簡単に問題が解決するのではないかと考えました。私にとって、ギタートリオこそが、バランスが完璧で理想的なアンサンブル形態なのです。聴衆もコンサートを通じてアンサンブル全体の統一と個々のパートの複雑さを楽しむことが出来ます。そこでシュー・ホームズ＝リンダーとロバート・ナンスにトリオの結成を呼びかけて、最初に委嘱した作品が、ギャレット・シャツァーの〈The Transition〉だったのです」

自分が早い時期から７弦ギターを使ってきた理由を、メイソン・フィッシュはこう語る。

「私に７弦ギターを弾くことを決心させたのは、ギターを教わった最初の先生でした。それは６弦ギターを弾き始めてから９ヵ月位経った頃でした。そのとき私は13歳でしたが、７弦ギターを弾いていた先生に憧れて同じ楽器を弾きたいと思ったのです。その後、弦が増えることによって、音楽的な可能性が広がることを理解し始めました。７弦ギターを弾くことに伴う唯一の問題は、この種の楽器を作る楽器製作家の数が限られていることと、質の良い楽器を探すのが難しく、費用も高いことです。でも７弦ギターをやめて８弦ギターを弾こうとは思いませんでした。大きなコンサートホールでも、よく響いて美しい音を出せる８弦ギターを聴いたことがなかったですからね」

「この楽器も人気が出てくれば製作家が改良法を探すに違いないと確信しました。私の７弦ギターの製作家はカリフォルニア州ウィリッツのグレゴリー・バイヤーズです。私は７弦ギターのレパートリー作りに貢献したいと考え、ニューミュージックに対する関心が芽生えました。７弦ギターの演奏曲目が増えれば自ずと演奏者も増えるはずで、そうなれば楽器製作家達も７弦ギターを実験してみようという気になるはずです。楽器というものはこうして発展してきたのです。アンサンブルにおける７弦ギターの役割は、低音域を充実させるだけではなく、作曲家に音楽的なメリットを生かすための多くのチャンスを与えることだと思うのです」

メビウス・トリオが委嘱する作曲家は、ローカルな音楽コミュニティーを基盤に活躍している人が多い。

「我々にとって、サンフランシスコ音楽学校は、新進気鋭の若手作曲家と出会う最も重要な場所です。我々もその一員であるニューミュージック・コミュニティーからは、この学校に触発され、多くの人がこれに参加するにつれて、斬新なアイディアが着実に生まれています。

「『最後の光』というタイトルのアルバムは、ギタートリオのレパートリー作りに、我々が貢献した最初の作品です。

メビウス・トリオ　（左から）メイソン・フィッシュ、ロバート・ナンス、マシュー・ホームズ＝リンダー

この作品はメビウス・トリオのために作曲されたものですが、その作品によって、我々がアンサンブル奏者として多才であり、作品の演奏者としても多才であることを示しています。このアルバムの中には、幅広い作曲スタイルがありますが、演奏するメンバーは、お互いを認めあっています。我々はそれを誇りに思い、今後さらにCDを製作するのを楽しみしています」

メビウス・トリオのギタリストであるマシュー・ホームズ=リンダーは、自分の天職をニューミュージックであると常に感じている。

「私が長く指導を受けた最初の先生は、デイヴィッド・ナダルですが、ブローウェルの〈シンプル・エチュード〉や、ベリンダ・レイノルズやマーク・メリッツといったイエール大学の作曲家の作品を使って私を育ててくれました。私は、クラシックギターという宇宙において、自分がひときわコンテンポラリー・ミュージックと繋がっていることを感じています。ですから“クラシック”という言葉は、私にとって些か違和感があります。ギャレット・シャツァーの〈The transition〉を初演してからというもの、我々3人が目指すものは、ソリストとしてのキャリアではなく、ギタートリオ音楽の分野を作曲家とともにコラボレートすることだということが明白になったのです」

「我々には、メイソンの7弦ギターによる音域の広さと、彼の類まれな演奏テクニックがあるので、とても幸せです」

「アイディアという意味では、音楽であれ、興行であれ、トリオという存在は興味深い原動力です。経験的に言って、3人のグループから生まれる対話は、ある程度一致した2人と全く違った1人によって、常に大いに盛り上がるものです。3人編成というのは、民主的に事を決めるのに便利な方法です。我々はお互いに親友であり、いつも2対1のグルーピングになります。ボブ・ナンスとメイソン・フィッシュのようなギタリストと毎日演奏ができて、私は非常に幸せを感じています」

友人がメンバーになっている他のアンサンブルの中から作曲家を“借りる”のが、我がトリオのやり方だと、ホームズ=リンダーは言った。

「サンフランシスコのリビング・アース・ショウは、エレキギターと打楽器の素晴らしいデュオで、ブルックリン・ニューミュージックに夢中になっています。アドリアン・ナイトとサミュエル・カール・アダムスが彼らのために書いた素晴らしい曲を聴いて、我々ギタートリオのための作品を彼に委嘱することにしました。関係者全員が、相互の利益のために働く感覚は最高です。我々の作曲家や友人のアンサンブルが成功すれば、音楽を共有する全員に成功と幸せをもたらしてくれるように感じます」

「サンフランシスコ音楽学校を通じて多くの作曲家と知り合いました。ダン・ベッカーなしに作品を委嘱するまでに、彼の大勢の生徒たちにも作曲を依頼しました。ベッカーは大学で作曲科の主任教授をしています。我々は、ダン・ベッカー、セルジオ・アサド、エイカー・[illegible]ド・タネンバウムといった優れた指導者を得てきました。ダン・ベッカーは、我々にクロノス・カルテットのデイヴィッド・ハリントンを紹介してくれましたが、彼は我々に幾つか貴重なアドバイスをしてくれました。我がトリオがスタートしたときに宣言したのは“我々はギターのクロノスになろう”でした。だから彼をよりどころにすることは、夢が実現することなのです」

ギタリストのロバート・ナンスがメビウス・トリオに参加した理由は、彼がもはやソリストにはなりたくなかったからである。

「1人で演奏するよりも友人や仲間と素晴らしい演奏を共有する方が、無限に満足が得られるからです。作曲家である友人とコラボレートすることを、私は楽しんでいます。だから毎日が活気づくのです」

サンフランシスコのスタジオSQで、メビウス・トリオのデビューCDを録音した時、プロデューサーをセルジオ・アサドとマーク・テイコルツが務め、エンジニアはジャスティン・サックスが担当した。

このトリオは、ロサンゼルスで開かれた2011年ギターファンデーション・オブ・アメリカ・リージョナル・シンポジウムで演奏した。

また、彼らは、ケネディ・センター音楽プロジェクトの一部であるミレニアム・ステージにも登場し、ワシントンDCのケネディ・センターでも演奏を行なった。ケネディ・センターは、毎年“音楽プロジェクト”と称するプログラムを開催しており、そこでは全米のトップクラスの音楽学校が数校選ばれ、その学校を代表する演奏者が招待されて演奏を行なう。メビウス・トリオもサンフランシスコ音楽学校を代表して招かれた。

メビウス・トリオ

彼らが演奏した曲目は、サーバ・アミニカ作曲〈ギタートリオのためのペルシア舞曲〉、ギャレット・イアン・シャツァー作曲〈The transition〉、アンソニー・ポーター作曲〈needle-play〉、など様々な音楽を楽しめるプログラムであった。アミニカの作品は、伝統的なペルシア旋法の音階と形式で作られていた。シャツァーの楽曲はポスト・ロマン派的手法で書かれた優れた作品。ポーターの作品では、ギターにゴムバンドを巻き付けたり、ギターの表面板、側板、裏板などを叩いて打楽器効果を出すなど、幅広いテクニックを聴衆に示した。

メビウス・トリオは、サンフランシスコのオールド・ファースト・コンサート・シリーズや5月4日のペニンシュラ・ギター・シリーズに出演したが、7月にはシエラ・ネバダ・ギター・フェスティバルにも参加する。彼らは、作曲家アドリアン・ナイト、ケビン・ニーランド、フランク・ウォーレスが作曲した4つの新曲を用意している。

また、まもなくサミュエル・カール・アダムス、マリオ・ゴドイ、ベリンダ・レイノルズ、ベンジャミン・ウォーレスからの作品を入手することになっている。

それに加えて、ベリンダ・レイノルズ、ベン・ウォーレス、マリオ・ゴドイにはさらに新しい作品を委嘱している。

詳しくは以下を参照：
http://mobiustrio.com/
http://www.youtube.com/user/mobiustrio?feature=watch